

高山帯の紅葉

山の草木がまるで祭りのように色とりどりの輝きを見せる季節がやってきました。

人が手をかけることもなく、また目に触れることも少ない高山植物は、その多くがちいさく、いじらしく可憐に見える一方、他の多くの植物を枯らせてしまう低温・豪雪・強風に半年責められる場所で耐え抜くしづとさ・たくましさを持ちます。一般的な植物からすると相当偏屈な少数部族になるでしょう。

高山帯とそれ以下を分ける森林限界は、高木が群生できるか否かを分ける境界です。旭岳ロープウェイの姿見駅（上の駅）周辺でかるうじて「木」の印象を持つ植物、ハイマツやウラジロナナカマドなどは、基本的に上に向かう「幹」が無く、たくさんの柔軟な枝をてんでバラバラに細かく伸ばします。枝のひとつやふたつが風や寒さで傷んでも、その木

全体へのダメージを引き下げるとともに、豪雪をネットのように受け止め、断熱材や防風シェルターとして利用してぬくぬくと積雪期を過ごします。

また、高山帯の木の多くは草にしか見えないので、紅葉して



Nature Column (ネーチャーコラム)
自然ガイドなどで活躍する人々をリレーしています。

も「草もみじ」とクサ呼ばわりされることも多く、「極小の木の宝庫」ということもできます。旭岳に群生するチングルマはその代表です。

朝の冷えの強弱や日射の強弱で色あいを微妙に変えることや、嵐や雪に襲われれば一瞬で失われるハカナさも持つことが、山の紅葉が我々の心を一層つかむ理由かもしれません。長いモノトーンの季節を前にして、いつも以上に目が色彩に飢えているのかも。

コロナウイルスと、冬に近づく山への注意をおこたえることはできませんが、今年の色に一瞬、我を忘れてみたい季節です。

【MEMO】 その年により若干変わりますが、旭岳は9月中旬～下旬、天人峡は10月上旬～中旬ごろが紅葉の見ごろです。

旭岳ビジターセンター 菊地基

▼高山帯の木（雪をシェルターに）



◀一般的な木

▶ウラジロナナカマドの実



「それにもかかわらず」

魔法の言葉が必要な時

東川町国際交流員 (CIR)

金 多 潤

今、韓国で最もホットな小説家は誰か。多少意見の差はあれど、「チョン・セラン」という答えに「ありえない」と言う人はいないはず。2010年のデビュー以来、多くの読者から愛されてきた彼女は、数年前から大衆の注目を浴び、今や発表する全ての作品がベストセラーになる有名作家。代表作としては『ファイティン・ピープル』、『屋上で会いましょう』があります。

中でも『保健室のアン・ウニョン』（2015年）はドラマ化され、9月25日からネットフリックスで公開されます。



「私たちがお互いを頼り、愛し合いながら生きていくべきだ、それは意外と気持ち良いことだ」という

M高校に新しく赴任した養護教諭アン・ウニョンは、実は見えないものが見え、闘える霊能力者。原因不明の不思議な出来事が次々と起こるM高校でエアガンとおもちゃの剣を武器に戦うアンと、歩く幸運のお守りと言えほど強い気を持つ漢文教師ホン・インピョのスクール・ファンタジー・ラブ・ヒューマン・コメディ……つまり、正体不明の作品です。ここまで聞くと「何これ？」と思われるでしょうが、一度手にしたらその場で全部読んでしまおうと思います。面白すぎて！

「何も変わらないから」と厭世的な態度を取るのではなく、「それにもかかわらず」と話を広げていきます。この状況が果たしてよくなるのかと、何度も心が折れてしまうこの頃、「それにもかかわらず」この一言を付け加えるだけで少しはポジティブになれる気がします。読書の秋に読んでみてはいかがですか？（せんとびゅあII ほんの森で貸出中）

もかかわらずの世界」とも言えます。M高校の生徒たちは、思春期ということもあり、時々してはいけない行動をします。障がいを持つインピョの歩き方を真似して笑うし、万引きするし、同性愛者カツプルに「汚ない」と暴力を振るう。しかし、主人公は生徒たちの行動の原因は彼らの中ではなく、他（邪悪なもの）にあると言います。何か毒のようなものが広がったはずだ、生徒たちがこんな行動をするわけがないと。ここまで読んで少し考えてしまいました。どうしてここまで人に信頼と希望を持つことができるのか、と。